

心と体の問題抱える児童の増加防止へ

「友達が発表したことを認め合いましよう。ふざけたり、笑ったりしないように」

2日、平島小4年生3組の児童27人に鳴教大の佐々木准教授（行動医学）が呼び掛けると、「はい」と元気な声が響いた。

同小が11月28日から12月5日まで計4回にわたって取り組んだ授業のテーマは「自信の育成」。自分の得意なことや苦手なことを自己分析した上で長所を探したり、他人の長所を見つけてそれを相手に伝えたりする。

テーマは堅いが、授業内容はアニメーションを取り入れるなど子どもたちが興味を持てるよう工夫されている。この日の授業で取り上げたのは「自分の良さってどんなところ」。佐々木准教授と同小の学生が作

鳴教大、予防教育授業を本格化

いじめや暴力による学校不登校やうつ病など、心と体の問題を抱える児童を増やさないための予防教育を進めている鳴門教育大学が、県内の小学校で本格的な予防教育に関する授業を始めた。子どもたちに自分への自信を持たせるとともに他人を思いやる気持ちを育てるのが狙い。同大付属小中学校で試行を重ね、このほど阿南市の平島小学校で同大付属校以外で初めて授業を行った。子どもたちが生き生きと取り組んだ授業の様子を紹介する。

（社会部・大塚康代）

積極性を喚起

阿南・平島小で実践

「自信の育成」テーマ

つたアニメーションを見た後、児童が自分の考えを発表した。

児童は競うように元気よく手を挙げてアピール。「友達にやさしいところ」「いつも元気」など自分で考えた自分の良さを説明し、他の児童はそう思った理由を尋ねたりしながら、互いの理解を深めた。

片山雄斗君10は「僕はサッカーが得意。ほかの人も一人一人良いところがあるってすごい」。高山香蓮さん10も「みんなの良いところを知ることができた。「友達に優しい」と言った子がいたけど、私もそうになりたい」と笑顔で話した。

「小学生なりに自分自身を見つめているんだと感じた」と担任の鈴鹿真理子教諭。普段の授業ではほとんど発言しない内気な児童も考えを発表し「成長を感じた。人と違うところがある。児童の積極性につながる」と評価した。

以前から同大の取り組みを予防教育に関心があったという吉見隆史校長は「予防教育の授業を通して、児童が個性を考えるようになった。人と違うところがある。児童の積極性につながる」と評価した。

鳴教大では2009年に「予防教育科教育研究センター」を開設し、独自の予防教育プログラムを開発。いじめなど特定の課題に焦点を当てた授業は、これまでも県内の小中高で行ってき



鳴教大の佐々木准教授らから指導を受けながら、自分の長所を考える平島小児童＝阿南市内の同小

鳴門教育大予防教育科学教育研究センターが同大付属小中学校で研究を進めてきた予防教育が本格始動した。平島小を皮切りに、2012年度から県内小中学校で普及を図る。教員研修などを通して、各校で独自に授業ができるようにするのが最終目標だ。

学校には既に道徳や保健体育など身の健康を考える授業がある。あえて予防教育を取り入れる理由について、同大は科学的根拠に基づいた目標設定や授業構成をしてい

記者の目

現場でどう生かされるか

「目標達成イコール児童の心身の健康を守る」とつながると強調する。

ただ、予防教育に対する理解は学校現場でも十分浸透しているとはいえない。継続して導入するには授業時間の確保などの課題もある。同センターの山崎勝之所長は「現場での授業を通して理解を得たい」としている。

最初は予防教育の必要性に半信半疑でも、実際に児童が生き生きと積極的に学ぶ姿を見て、理解を示す教諭の声も聞く。予防教育が今後どのように広がるか、教育現場で生かされるかをしっかり見守っていききたい。

授業を実施した。同センターの山崎勝之所長は「短時間ではあったが、児童全員が集中して楽しみながら学べた」と手応えを感じた様子。12年度は県内小中学校20校で実施する予定で「予防教育への理解を学校現場にもっと広めたい。学校教員への研修を行い、将来は学校独自で予防教育授業を進めてもらえるようにしたい」と期待を寄せている。